

海外研修レポート

令和という新しい時代に、ヨーロッパ（ドイツ・スイス・イタリア）への研修参加が決定し、少しの不安と大きな期待を抱いて、研修に臨みました。

8月には、全道各地からの参加者との事前研修が開催されたのですが、私は参加できず、研修内容等については書類での確認のみで、当初はあまり抱いていなかった不安が少しずつ大きくなっていきました。

9月に入り、いよいよ出発の時期となりました。8日のお昼前に成田空港からドイツのフランクフルトに向けて出発し、到着したのは現地時間の夕方4時頃（時差マイナス7時間）で、約12時間に及ぶ長旅でした。翌日からの本格的な研修にむけて、その日はぐっすり眠りました。



▲ドイツの中心地の街並み



▲説明員の前田さん

【ドイツ】研修1か国目、最初の公式訪問先は『フライブルク市』でした。フライブルク市は、自動車の排ガスによる大気汚染や樹木への影響等の問題を受け、総合的な自然環境保全と経済発展の両立に向けた環境対策に取り組んでいる自治体です。その取り組みについて、いくつか紹介します。

①エコタウン・ウオーバン

市内にあるウオーバン地は、居住者約5千人の半数以上が18歳以下であり、子どもが暮らしやすい街です。

団地内の各戸への車の乗り入れは基本的に出来なくなっている、団地の端にある集合パーキングへ駐車することにより、子ども達も自宅の前でも安心して遊べるようになっていきます。

②交通環境対策

また、団地内には学校や幼稚園、商店などがあり、徒歩圏内での日常生活が可能な住環境となっています。住宅前の幹線道路には、町の中心部とつながる路面電車が走っていますが、継ぎ目のない線路や、ゴムタイヤの車輪、軌道の緑化等、騒音対策にも工夫を凝らしているようでした。

フライブルク市では、『ショートウェイの町』をスローガンとして、公共交通の促進、自転車交通の促進、車公害の少ない住宅地域、自動車道路の整備、効率の良い駐車場システムの5つの柱を基に、交通政策を行っています。



▲市の交通政策の5つの柱

1日に約6万人が通勤や通学のために市街地を訪れますが、そのほとんどの人が市の政策である、パーク



▲チューリッヒ大学展望台からの風景

今回訪問したドイツでは、様々な環境政策に取り組んでいます。その取り組みが行政主導ではなく、住民からの声によるものだということと、市内にとどまらず周辺の自治体なども巻き込んで取り組みだという点に衝撃を受けるとともに、私達もそんな町づくりをしていきたいら良いなと感じました。

【スイス】研修2か国目、次の公式訪問は参加者が2班に分かれて行いました。私の班は、『ザンクトガレン市』を訪問し、子育て支援や女性の社会進出に対するサポート活動などについて学びました。



▲電力会社内部の様子

もう一方の班は、『エルストフェルト町』を訪問しました。この町は、かつて鉄道産業で栄えた町であり、近年では青函トンネルを超える世界最長のトンネルが完成したことで知られる町です。人口も4千人弱と、福島町と共通点が多くある町でした。現在は、町が運営する水力を利用した電力会社が町の主力産業となっています。今回の訪問では、その運営会社の立ち上げの経緯や、町民の雇用に関するについて学びました。



▲アルプスの麓にあるエルストフェルト町

(12月号へ続く)